

三翠化学会

(題字は稲川先生)

第57号
平成20年8月20日発行
三翠化学会
津市 栗真町屋町1577
三重大学大学院生物資源学研究所内
電話/津 (059) 232-1211
振替/名古屋9-59345
印刷/株式会社あるむ
TEL (052) 332-0861 大8長谷川 正一

平成20年度 総会・懇親会開催 三翠化学会

小畑 仁 教授・特別講演会

暑さきびしきおり、会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと御慶び申し上げます。
本年度は、三翠化学会の総会を開催する年にあたり、九月二〇日(土)午後、三翠化学会の総会と、平成二〇年三月で定年退職されました小畑仁先生の特別講演会を予定しております。

小畑先生は、旧土壌学・植物栄養学研究室の時代から、学科改組を経て、生物資源学部長にいたるまで、農芸化学だけでなく、学部全体のために尽くされ、このたび定年を迎えられ、いろいろと懐かしい話も聞けるかと楽しみにいたしております。

ぜひ、多くの方にご参加いただきますようお願いいたします。

(三翠化学会副会長 荻田修一)

記

【日時】平成20年9月20日(土)
12時30分～14時(受付開始12時)

【場所】三重大学生物資源学部 217番教室
○小畑 仁先生ご講演(13時～13時45分)
○三翠会総会(14時～)
生物資源学部 大講義室
○懇親会(16時～)
三翠小ホール
【会費】3,000円

小畑 仁 教授からご挨拶

三翠会会員の皆様方にはお元気で活躍のこととお慶び申し上げます。
母校三重大で三十三年の長きにわたり大変お世話になりました。在職中は好きな植物金属栄養の研究・教育を続けさせて頂き、無事退職の日を迎えることができました。多くの先輩方に恵まれ、学生の皆さん、同僚の皆さんと心おきなく時を過ごすことができました。より感謝致しております。

後期には「ボランティア幹事」として週二回授業を持たせていただくことになっており、大学にも顔を出させていただきます。時間的には大学教授時代よりタイムナシ状況にありますが健康を損ねないよう気をつけながらなんとかやっております。

国立大学法人化以後大きく変貌してしまいました。母校がますます発展されることを祈念いたしております。長い間お世話になりました。

地域の自治会活動、三重県

関東支部会だより

関東支部総会開催

平成一七年二月六日に首都圏における教育、研究および社会連携活動の拠点として、三重大学東京オフィスの開所式が行なわれました。三翠化学会関東支部役員間で、平成一九年春に行なわれる総会は、ぜひ東京オフィスを使用して実現しようという気運が高まりました。

辻野支部長(大11)より、前回の総会は雪の中、今回は小雨の中と天候にめぐまれません。と、の第一声で挨拶が始まりました。三翠化学会会長の福田様を代表して挨拶をされました。議長に近藤氏(大12)が選出されました。

辻野支部長より、十八年ぶりに復活した、前回の総会の報告、梅林先生の講演会「独りぼっちの木」



三翠化学会 関東支部 総会 平成19年3月25日

根運動—タイにてケシ栽培の撲滅に向けて—について、また関東支部のブログ開設について、アサヒビール社勤務の同窓二名の協力を得た、神奈川工場見学、三重大学東京オフィス関連行事への参加状況等々が議題になりました。

会計報告の後、役員が新任されました。支部長辻野(大11) 副支部長七名、亀山(大12) 近藤(大12) 清水(大14) 長島(大15) 市川(大16) 藤川(大20) 田中(大20)、監事 吉田(大12)。

講演会は「独立法人化後の三重大学の現況」と題し、三重大学大学院生物資源学研究所の奥村教授より、少子高齢化時代の学生の現状と独立法人としての社会との連携、マスコミの風評被害の実情など丁寧な情報提供をいただきました。

記念撮影は東京オフィス正面玄関にて、参加者全員三十七名で行なわれました。

辻野支部長の挨拶に続き、本日のメインテーマ「白アリ」の被害とその防除」につきまして、滝野卓さん(大31)から講演をいただきました。

バイエルクロップサイエンス株式会社に勤務される演者は白アリに関する専門家として、つとに勇名を轟かせていらつしやいます。シロアリってなんでしょうか?の分りやすいお話から、我々を恐怖に陥れ入る持家の被害についての考察まで有益な知識提供をいただきました。

続いて、遠路津市よりご参加いただいたマジカル京さん、本名石崎京、昭和七年学芸学部卒によるマジックショーの世界に誘われ、京さんは東京都公認大道芸人資格をお持ちの逸材で驚きと笑いが交錯する楽しい一時を創造していただきました。

集合写真を撮影後高田頭さん(大11)のご発声で楽しい、楽しい懇親会が繰り広げられました。

サンダンス社勤務の藤川さん(大20)からのサンドイチに舌つづみを打ち、船堀マツヤサロン調理の立食パーティー会場は、ロビーでの趣味の写真展も行なわれ、市川さん(大16) 亀山さん(大12) 小島さん(大15)等みなさんが話に夢中になっていらつしやる中、再会を期して、十八時の閉会を迎えました。(文責 清水)

関西支部会だより

第八回関西支部交流会

関西支部は、平成一八年一〇月二九日(日)、第八回三翠化学会関西支部交流会をホテルクライトン新大阪で開催いたしました。

出席者は、残念ながら目標としておりました五〇名を下回り、二七名の会員の参加でした。

(総会) 関小田副支部長(大28)

談話会

司会は副支部長嶋林氏(専1・大2)により会は進行しました。

ご存じのように、農学部が生物資源学部となり、昨年から大学が大学院大学となり、我々が、専攻した室が何処へ行ってしまったのか理解出来ない状態になっております。

東京水産大学・東京大学ご卒業(農学博士)の天野大学院生物資源学研究所

懇親会

第九回関西支部交流会

杯で始まり、歓談を通じ連携と情報交換をし、異業種間の交流をはかりました。

その間、松中氏(専2)、岩佐氏、澤本さん(大43)のスピーチがあり街道研究家の佐野氏(専1)の江戸橋の由来の話の後、同氏の音頭で応援歌をがなり、副支部長の谷中氏(大13)の挨拶で交流会を締めくくりました。(大12・小林)

翠平成一九年九月九日(日)には、第九回三翠化学会関西支部交流会を同じくクライトン新大阪において開催しました。

イオン新大阪において開催しました。談話会では、三重大学大学院・梅林教授より「大学の現状と展望」を、(梅)紀州ほそかわ梅の郷本店・細川社長より「機能性梅干の開発」をそれぞれ講演いただきました。



第九回関西支部交流会

三重県支部会をよびよ

一三〇〇年の昔から建築等技術を伝承するべく二十年ごとに行われてきた伊勢神宮式年遷宮。平成二五年に行われる第六十二回式年遷宮のご用材を神領民が「お木曳き」という伝統行事(無形民族文化財)で運びます。

三重化学会三重県支部では、一日神領民として「お木曳き」行事に参加するこ



参加を申し込む必要から参加者を三月末まで締め切った「お木曳き」の日を平成一九年五月二〇日(日)と役員会で決定。会報第五六号で告知するとともに前回の総会(平成一八年九月一六日)で事業計画の承認を得る手続きを行い事業に着手しました。

三翠化学会(団体)で一日神領民として「お木曳き」行事に参加するこ

とを平成一九年度の事業としました。そのため、参加する「お木曳き」の日を平成一九年五月二〇日(日)と役員会で決定。会報第五六号で告知するとともに前回の総会(平成一八年九月一六日)で事業計画の承認を得る手続きを行い事業に着手しました。

参加を申し込む必要から参加者を三月末まで締め切った「お木曳き」の日を平成一九年五月二〇日(日)と役員会で決定。会報第五六号で告知するとともに前回の総会(平成一八年九月一六日)で事業計画の承認を得る手続きを行い事業に着手しました。



当日は申し分ない「お木曳き」日和の天候となり、急な事情で二名の欠席があったものの、二十名が参加しました。その内五名が福田会長を含む大1で強い結束に感服したところで、全員八時三〇分前には集合、白装束に着替え、九時出発予定の「お木曳き」に参加しました。

当日は参加者が多く数百名で一台のお木曳車を二本の綱で曳く事となり、吾が三翠化学会左の綱の先頭を受け持ちました。数百名で一台のお木曳車を曳くには軽く綱を持っていればと思いましたが、先頭が強く綱を曳かないと全体が動かずひいてはお木曳車も動かないのです。

宮町から外宮までの一五キロを木遣り音頭に励ましながら参加者が多く数百名で一台のお木曳車を二本の綱で曳く事となり、吾が三翠化学会左の綱の先頭を受け持ちました。数百名で一台のお木曳車を曳くには軽く綱を持っていればと思いましたが、先頭が強く綱を曳かないと全体が動かずひいてはお木曳車も動かないのです。

宮町から外宮までの一五キロを木遣り音頭に励ましながら参加者が多く数百名で一台のお木曳車を二本の綱で曳く事となり、吾が三翠化学会左の綱の先頭を受け持ちました。数百名で一台のお木曳車を曳くには軽く綱を持っていればと思いましたが、先頭が強く綱を曳かないと全体が動かずひいてはお木曳車も動かないのです。

宮町から外宮までの一五キロを木遣り音頭に励ましながら参加者が多く数百名で一台のお木曳車を二本の綱で曳く事となり、吾が三翠化学会左の綱の先頭を受け持ちました。数百名で一台のお木曳車を曳くには軽く綱を持っていればと思いましたが、先頭が強く綱を曳かないと全体が動かずひいてはお木曳車も動かないのです。

訃報 赤木盛郎先生逝去

名譽教授・赤木盛郎先生は、昨年十一月一七日に逝去されました(享年八五歳)。

先生は大阪帝国大学工学部(醸酵工学科)を卒業され、三年半ほど大阪市立生活科学研究所(栄養課)に勤務された後、昭和二十四年に三重農林専門学校(農産製造科)にご就任され、三重大学農学部講師、同助教、昭和四八年に同教授、ご定年前には三重大学評議員も勤められ昭和六一年に定年退職されました。

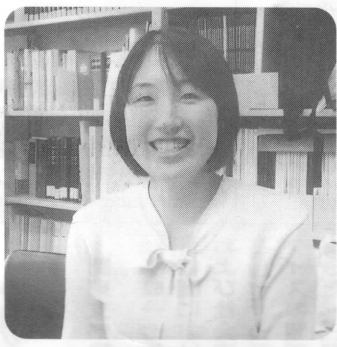
振り返りますと赤木先生は農学部が発足した当初から改組まで、即ち三翠化学会とほとんど同じなごにわたりご活躍されました。ご定年のおりに論文及び著書をグループ別に整理された「微生物」とも四十一年「ありま」です。その項目から在りし日の先生を思い起こしていただければ幸いです。

酵母の製造に関する研究、炭化水素を炭素源とする酵母の生産に関する研究、酵母による菌体外蛋白質生産に関する研究、甘糖糖蜜糖蜜アルコール蒸留廃液の処理と利用に関する研究、酢酸を炭素源とする酵母の生産に関する研究、澱粉質化性酵母に関する研究……。

先生のご趣味は、魚釣り、盆栽、詩吟でした。本同窓会や卒業記念パーティーでは先生の詩吟をよく聞きました。赤木先生の遺徳を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。(久松 記)

今、私は

杉本 華幸 (大51)



今から九年前、私は生物資源学部に入學しました。その頃はまた一学部一学科制で、二年生に進級するときに七つのコースに分かれ、私は四十人ほどの仲間と一緒に農芸化学コースに所属されました。

当時を振り返ると、各研究室の研究対象は植物、微生物からタンパク質まで多岐に渡っており、先生方や友人から幅広くいろいろな話を聞くことができました。

とができたのは、農芸化学コースならではなかったかと思えます。現行のシステムでは、旧農芸化学コースに属していた研究室は二つの学科に分かれてしまし、農化コース出身の人間としては寂しさを感じますが、現在でも研究室の場所は変わっておらず(私の所属する分子生物学研究室だけは五階へ移動してしまいましたが)、旧課程時代の風景を見ることができました。

農芸化学コースを卒業後、博士課程に進学し、現在でも大学に残る私が、農芸化学コースの流れをくんだ最後の学生となりました。本年七月に学位を取得する予定です、私の卒業とともに、旧課程のカリキュラムは終了するようです。農芸化学コースを知る人間が少なくなっていくことは残念ですが、期せずして、農芸化学コース最後の学生になったことを感慨深く思います。

農芸化学コースを卒業後、博士課程に進学し、現在でも大学に残る私が、農芸化学コースの流れをくんだ最後の学生となりました。本年七月に学位を取得する予定です、私の卒業とともに、旧課程のカリキュラムは終了するようです。農芸化学コースを知る人間が少なくなっていくことは残念ですが、期せずして、農芸化学コース最後の学生になったことを感慨深く思います。

農芸化学コースを卒業後、博士課程に進学し、現在でも大学に残る私が、農芸化学コースの流れをくんだ最後の学生となりました。本年七月に学位を取得する予定です、私の卒業とともに、旧課程のカリキュラムは終了するようです。農芸化学コースを知る人間が少なくなっていくことは残念ですが、期せずして、農芸化学コース最後の学生になったことを感慨深く思います。

農芸化学コースを卒業後、博士課程に進学し、現在でも大学に残る私が、農芸化学コースの流れをくんだ最後の学生となりました。本年七月に学位を取得する予定です、私の卒業とともに、旧課程のカリキュラムは終了するようです。農芸化学コースを知る人間が少なくなっていくことは残念ですが、期せずして、農芸化学コース最後の学生になったことを感慨深く思います。

われらのクラス会レポート

化4

《平成18年度》古都発見

平成一八年度のクラス会は古都奈良に集うこととし、一月一日、猿沢池近くのホテルに集合した。

集まったメンバーは勝田、黒田、渋谷夫人、田井中、原田、藤田、古川、細見、花山、松尾、梅田、村上、林(成)。

翌日は生憎の雨天で、ホテルの借り傘でボランティア案内のもと西の京に移動した。



唐招提寺を拝観、解体修築工事中の金堂、鑑真和尚のお墓、戒壇とまわり薬師寺へ、ゴールド・ミュージックと謳われた東塔と新しく建立された西塔を比較参観、永い年月での基壇の沈下を案内された。

また新しく建立された玄奘三蔵院伽藍の平山郁夫画伯の大東西城壁面を鑑賞、柿の葉すしで有名な店で昼食をとり、来年のつづがない再会を誓って解散した。(幹事・村上昌廣、古川細見)

《平成19年度》猪之倉温泉で

平成一九年のクラス会は、母校訪問を目的に近くの温泉に集まることと希望し、九月二五日に猪之倉温泉に集まった。

つどうクラス員は田井中、林成美、村上、花山の四夫婦と、梅田、原田、勝田、古川、細見、松尾、和田(藤山)、渋谷夫人、戴本の二十名である。

専2

仙入会(専二会)を平成一八年一〇月一日、津市のプラザ洞津で開催しました。今回は中勢地区が幹事を担当することになりました。

当日は三十二名中出席が十七名でした。喜寿を過ぎ体調不良や病後療養中が増えました。

予定時刻には全員集合、会食を始めました。近況報告を終え話が弾みました。織田信長生母の墓や藤堂藩士で学者文人として

ながら「日本書紀」の注釈書「日本書紀通証」五十首順に配列した国語辞典の先駆として名高い「和訓栞」などの著書

を完成した業績を再認識しました。

また、栄町古刹の薬師王寺の薬師如来坐像(国重文)を拝観、藤堂高虎夫人久芳院、織田信長生母の墓や藤堂藩士で学者文人として

ながら「日本書紀」の注釈書「日本書紀通証」五十首順に配列した国語辞典の先駆として名高い「和訓栞」などの著書

を完成した業績を再認識しました。

また、栄町古刹の薬師王寺の薬師如来坐像(国重文)を拝観、藤堂高虎夫人久芳院、織田信長生母の墓や藤堂藩士で学者文人として

ながら「日本書紀」の注釈書「日本書紀通証」五十首順に配列した国語辞典の先駆として名高い「和訓栞」などの著書

を完成した業績を再認識しました。

また、栄町古刹の薬師王寺の薬師如来坐像(国重文)を拝観、藤堂高虎夫人久芳院、織田信長生母の墓や藤堂藩士で学者文人として

ながら「日本書紀」の注釈書「日本書紀通証」五十首順に配列した国語辞典の先駆として名高い「和訓栞」などの著書

を完成した業績を再認識しました。

また、栄町古刹の薬師王寺の薬師如来坐像(国重文)を拝観、藤堂高虎夫人久芳院、織田信長生母の墓や藤堂藩士で学者文人として